

周南市鹿野高齢者生産活動センター

原田さんの手漉き和紙



鹿野地区では戦後、冬場の収入源として、手漉き和紙を作り生計を立てていましたが、一時生産をやめていました。

昭和54年、周南市鹿野高齢者生産活動センターが高齢者の生きがいづくりのため設立され、その開設時に、手漉き和紙は復活されました。

原田さんは10年前より修行を始め、4年前より本格的に制作をされています。現在、手漉き和紙を作る人は原田さん一人で、後継者がいないのが悩みです。時々、挑戦してみる人はいるものの、重労働のために一週間でギブアップされてしまいます。

和紙は、寒い時期に糊が良く効くため、12～3月に漉きます。冷たい冬の時期に、中腰で1日中作業を行うため、背中や腰がはってきます。

また、糊の原料の“トロロアオイ”は2年かけて準備しますが、天候の悪い年は収穫できず、和紙が漉けない年もあります。

「職人」といわれる人が少なくなり、機械で「ものづくり」が行われる今の時代に、化学糊を一切使用せず、手作りの風合いを残す貴重な鹿野の和紙。出来るだけ多くの人に知ってもらい、次の世代に伝承して行ってほしい物のひとつと言えるでしょう。



原田 瀧子さん